講義名	商品開発特別研究 A /商品開発特別研究	授業形態					その他						
担当教員	後藤 こず恵	開講期・曜日・時限 後期 金曜日 4時限											
担当教員		単位数 2 履	修開始年次 2年生	ナンバリ	ング・コ CSM250								
題と概要							í L						
	面値ある商品を開発をする上で必要となる基本的な考え方やプロ の多様化している現代社会において、消費者のニーズは以前にも 案する力が求められている。このような問題意識に基づき、本識	1セスを学ぶ。 5増して複雑化している。その	)ような中で、消費者の顕在	的・潜在的ニーズを把	握し、既存の資源を組	み合わせ、価値ある商品	授業計画						
・サービスを立刻	<b>察する力が求められている。このような問題意識に基づき、本議</b>	i義では主体的に考え、知識で	E知恵に変えられる力を身に	つけるためのトレーニ	ングを行う。			品企画プロセス マに関する基本的な用語の予習 2時間  業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間  ンタビュー法					
								メウラビュー法 ンタビュー法 ーマに関する基本的な用語の予習 2時間 業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間 窓法					
								察法 に関連する基本的な用語の予習 2時間 ・マに関する基本的な用語の予習 2時間 ・ド・コーザー法					
							1 1 7	# 1 _					
							第6章	- マに関する基本的な用語の予習 2時間 業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間 ンセプト開発 - マに関する基本的な用語の予習 2時間					
達目標	<b>組む課題を通じて、 課題を発見する力、 課題を分析する力、</b>	<b>◇売れる中ナフカナ市は</b>	. h z z n = L   L   n   2	또 있습 # 이 크리 V _ 1	しにもいて必悪しされ	7.000 ++65+0-0-0-4	第7章	ーマに関する基本的な用語の予省 2時間 業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間 ロトタイピング ニマに関する基本的な用語の予習 2時間					
ることができる。	出心疎越を廻して、 訴題を完免する力、 誘題を方析する力、	正画を立条する力を向め	がれる。 てのことにより、音の	性任安共剧ノロジェク	トにのいて必安とされ	の知識・技能を身に 川	1 1 7	- マに関する基本的な用語の予賞 2時間 ・ 実内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間 ・ 場規模の確認 ・ マに関する基本的な用語の予習 2時間					
							第9章	業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間  合・技術の確認 					
							第10章	順各ニー人の確認 ・一マに関する基本的な用語の予習 2時間   ボースに関する基本的な用語の予習 2時間					
						第11年 版以社場 の大器 2.9時間 の大器 2.9時間 の 1 日本 の 1 日							
								ーマに関する基本的な用語の予習 2時間 学内容に関連するニュースやHPの問覧 2時間					
出課題							# 13 m	ディイル技术 ・一マに関する基本的な用語の予習 2時間 ・業内のに関連するニュースやMPの関繁 2時間					
各回の授業内容に	こ関する小レポート (キャンパスクロス)を出題するので期限ま レポートおよび最終レポートの提出を求める。	でに提出すること。					- 第14章 正面機能が成立中部の大阪 28時間 東京区間から基本的な中部のから開発制 の14年 18年 18年 18年 18年 18年 18年 18年 18年 18年 18						
							第10章	プレゼンテーション ーマに関する基本的な用語の予習 2時間 業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間					
<b>課 (レポート</b>	、や小テスト等)に対するフィードバックの方法						┧┕						
提出内容についてのコメントを適宜フィードバックする。						授業形態	(アクティブ・ラーニング) ア: PBL(課題解決型学習)		<del></del>	イ・反転授業 (知識聚得の要素を授業外に	こ済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形	能)	
								ウ:ディスカッション、ディベート			エ:グループワーク	THE THE STATE OF T	
							l⊢	オ:ブレゼンテーション キ:その他(AL型であるけども、以上の項目の	Dいずれにも該当しない場合)		カ:実習、フィールドワーク		
							卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 課題を発見する力と分析する力を身につけることで、生活者(消費者)の視点に立って物事を捉えるマインドを養うことができる。また、企画を立案する際には、供給者(企業)の視点に立ってさまざまな資源を組 場合わせたり、ライバルとの関係を考察する力を養えるだろう。両者を同時に併せ持つことで、より包括的な思考ができる人材となれる。このことは、企業マネジメントに関する幅広い知識と専門領域で要求される 別面・実践的能力を見こつけるというディブロマボリシーの造成に関係する。						
呼価の基準 小しポート!!!#	- L - E O 04						み合わ 知識	tたり、ライバルとの関係を考察する力を養える g践的能力を身につけるというディブロマポリシ・	だろう。両者を同時に併せ持つことで、よ 一の達成に貢献する。	より包括的な思	引考ができる人材となれる。このことは、企業	<b>業マネジメントに関する幅広い知識と専門領域で</b>	!要求される
小レポート授業で 中間レポート 最終レポート	2 = 5 0 % 1 = 2 5 % 1 = 2 5 %												
各種レポートを作	作成する際には、授業で学んだことをまとめるだけに留まらず、	これまでに学んだ知識(授業	美外を含む)を総動員して自	身の考えについて議論	する姿勢が求められる	•							
	ての注意・助言他 関係 <u>の</u> 科目の受講経験がある、もしくは同時に受講していること	が望ましいが、必須ではない	١٥				_	段業の実施及びICTの活用に関する記述	- / m				
マーケティング関係の発目の受護途験がある。もしくは同時に受護していることが要ましいが、必須ではない。 テキストを読み、設問に含えてくる歯距を出すので、スケシュール管理に注意を払われたい。 マーケティング間回の関章を履修するにあたっては、普段から終済ニュースに触れておくことが望ましい。日経テレコン(学内PCよりアクセス可)において日経活通新聞などを読む習慣をつけると授業で学んだ理論を具体的な事象に落と込みで理解できるようになるだろう。また。同様の現象を異なる場面で観察したときにその背景について考察することも可能である。その他、テレビ東京の経済番組(ニュース、ドキュングリン)についても学ぶところが5いので現をある。							そのた。	配、授業中の小レポートにはキャンパスクロス の、スマートフォンやパソコンなどインターネッ すって準備いただけるようにお願いしたい。	を採用する。 ト接続が可能な端末の携帯がが必須となる	5.			
ルに理論を具体は ース、ドキュメン	内な事象に洛とし込んで理解できるようになるだらう。また、向 ンタリー)についても学ぶところが多いので視聴をお勧めする。	依の現象を共体の場面で観測	(したとさにての自家に ノい	(与除9 むここも可能	である。その他、テレ	こ果ぶの経済留組(ニュ							
							実務経り	の有無及び活用					
							]						
X科書 . 1 からの商品企	画.	西川・廣田	1	碩学舎	2640	4502693006	1						
		+			+		備考						
考図書							1						
.なし.		+			1		1						
					1		<del> </del>						